

Lenovo



Official Technology Partner

世界最大級の大会を支える 運営基盤

Lenovoは、FIFAワールドカップを支える
デジタル基盤を構築しています

Powered by



intel
vPRO

That's the power of
Lenovo with Intel Inside®

FIFAワールドカップの運営環境

最高峰の業務オペレーションにおける 新たな基準

FIFAワールドカップ2026は、IT運用に非常に高度な要求を突きつけます。限られた期間の中で、FIFAは複数国にまたがり16以上の臨時オフィスを立ち上げ、数千人規模の一時的なユーザーを支援し、PC、タブレット、モバイル機器を含む10,000台以上のデバイス（インテル®搭載のLenovo ThinkPad X1およびThinkPad X9 AI PCを含む）を展開する必要があります。同時に、世界中にライブ放送されるイベント最中も、途切れないパフォーマンスを維持しなければなりません。

**現場の人員、実際の業務の流れ、
そして現実の使用環境に合わせて
テクノロジーを構築することで、
組織には柔軟に対応できる強さ、拡張性、
そして安定した長期運用がもたらされます。**

この環境を特に難しくしているのは、規模の大きさだけでなく、変動要素の多さにあります。各スタジアム、メディア拠点、司令センターは、それぞれ異なるインフラの整備状況、セキュリティ条件、コラボレーション要件のもとで運用されます。試合運営、放送調整、審判業務、メディア制作のすべてが、離れた場所にいるチーム同士のリアルタイムでの情報共有と円滑な連携に依存しています。わずかな遅延や設定ミス、障害であつても、日々の運用に連鎖的な影響を及ぼす可能性があります。

3

アメリカ、メキシコ、
カナダの3か国で開催

16

16都市の
各拠点で開催

10K

1万7千台の
デバイス

これらのコラボレーション環境は補助的なものではなく、大会運営において中核的な役割を担っています。スタジアムの司令センター、会場運営室、メディア拠点は、スタッフが即座に連絡を取り合い、ライブデータを共有し、急速に変化する状況に対応するための、連携された環境として機能します。これらの環境を支えるには、単なる接続だけでは不十分です。稼働開始直後から信頼性・安全性・即応性を発揮できるよう設計された、Lenovo ThinkSmartソリューションのような専用のコラボレーション環境が求められます。

大会期間中は、運用上の要求が継続的に変化します。試合時間帯には活動がピークに達し、役割の変化に伴って新規ユーザーの受け入れが増え、デバイスは拠点やユーザー間で頻繁に移動します。この規模とスピードでは、従来型のITモデルを維持することは難しくなります。手作業による初期設定、分断された在庫管理、連携されていないコラボレーション環境は、安定性が最も重要な場面で運用リスクを高めます。

FIFAにとって、このワールドカップ環境は、統一されたデジタル基盤を確立するための重要な契機となっています。それは、場所や運用上の負荷に関係なく、デバイス、ユーザー、コラボレーション環境全体で一貫したパフォーマンスを提供するために設計されたものです。単にテクノロジーを導入するのではなく、自動化、設計段階からのセキュリティ、統制されたライフサイクル管理を基盤とした、再現性の高い運用モデルの構築に重点が置かれています。これは、スタジアム、司令センター、メディア運用が安定して機能するために不可欠です。



最高峰の業務オペレーションを 支える基盤

FIFAの公式テクノロジーパートナーとして、Lenovoはデバイス、コラボレーション環境、サービスにまたがるフルスタックのAI対応運用モデルにより、世界で最も視聴されるイベントを支えています。テクノロジーを個別の部品の集合として扱うのではなく、Lenovo デジタル・ワークプレイス・ソリューションはオートメーション、データ分析、統合サービスを組み合わせ、運用全体を一貫して管理します。これにより、グローバル規模での大会運営に必要な安定性と精度を実現します。

“

この成果を大変嬉しく思っており、2026年と2027年に開催される史上最大規模の「FIFAワールドカップ」および「FIFA女子ワールドカップ」に向けて、何百万人ものファンが一つになる中で、Lenovoとのパートナーシップによるさらなるイノベーションを導入できることを楽しみにしています。

テイト・スアレス・ディアス氏
FIFA テクノロジー部門 プロダクトおよび
ビジネスエンゲージメント 責任者



自動化された高精度な運用を可能にする

FIFAワールドカップの規模において、運用品質は予測可能性に大きく左右されます。数千台のデバイス、ユーザー、コラボレーション環境が短期間で稼働する中、FIFAには高い負荷の状況でも正確に実行できる運用モデルが求められます。AIを活用した自動化はこの変化を支え、運用を受動的な調整から自動化された高品質な実行へと進化させます。

AIの導入により、業務オペレーションは受動的な対応から、あらかじめ最適化された実行へと変化します。

自動化はデバイスおよびコラボレーション環境のライフサイクル全体に適用され、システムがスタジアム、司令センター、メディア拠点に届く前に、準備状況の確認、設定作業、展開順序が調整されます。事前設定済みのキット、標準化された構成、自動化されたライフサイクル手順により、会場間のばらつきを抑えます。また、ITサービス管理プラットフォームとの統合により、受付、発送、返却、再展開を記録する基幹システムが提供されます。このアプローチにより、手作業による引き継ぎが減り、ピーク時の現場の負荷が軽減されます。

自動化は、データに基づく運用の仕組みによってさらに強化されています。運用データの収集により、各拠点のデバイスの状態やコラボレーションの準備状況、環境パフォーマンスをリアルタイムで把握できます。データから得られる情報は、試合前にリスクを明確にし、本番運用に影響が出る前に対応できるようにします。イベント期間中は、集中管理ダッシュボードがチーム間の連携を支援し、手作業での状況確認を一貫した可視化へと置き換えます。

自動化された業務の流れにより、大規模な展開でも高精度な実行が可能になります。150名を超えるエンジニアが、統合された管理の仕組みと自動検証を用いて同期された展開を実行し、切り替え前にハードウェア、ソフトウェア、コラボレーション環境が基準を満たしていることを確認します。時間外の更新や夜間作業も自動化されたプロセスで実行され、人的対応や直前対応への依存を減らします。

64%

.....

ビジネスリーダーの**64%**が、AIによって生産性が向上し、業務の流れが効率化されることで、従業員体験が向上すると期待しています。



オペレーションのあらゆる層に組み込まれた、ガバナンス、 継続して運用できる強さ、そして保護

FIFAワールドカップのような大規模運用では、セキュリティを後付けの仕組みとして扱うことはできません。大会の広範な運用環境は攻撃対象を広げ、運用停止、データ漏えい、デバイス紛失といったリスクにつながります。そのため、FIFAにとって、セキュリティは運用モデルそのものに組み込まれる必要があります。対象はインフラやネットワークだけでなく、各ユーザーが利用するデバイスにも及びます。

LenovoとFIFAは、既存の運用フレームワークに合わせてセキュリティを統合するアプローチを採用しています。標準運用手順やエスカレーション経路は、全体で一貫した対応ができるよう共同で整備されています。運用モデルを階層化することで、ユーザーや拠点ごとのリスクに対応し、セキュリティ対策をネットワークだけでなくデバイスにも適用しています。

FIFAにとってセキュリティは、インフラやネットワークから個々のデバイスに至るまで、運用の仕組みそのものに組み込まれている必要があります。

サイバー攻撃がますます巧妙になっている現在、ユーザーが利用するデバイスを起点とした対策は、これまで以上に重要になっています。世界的なスポーツイベントではサイバー攻撃が増加し、攻撃者はAIを活用してフィッシングやソーシャルエンジニアリング、不正アクセスの拡大を加速させています。インテル®搭載Lenovo AI PCでは、より多くの処理をデバイス側で実行できるため、機密性の高い業務においてクラウドとの継続的な通信への依存を減らすことができます。これにより、リスクが高く通信環境が不安定になりやすい状況でも、情報の露出を抑え、応答速度を向上させ、データ管理を強化できます。

デバイスのセキュリティ強化と設定管理の徹底が、この優位性をさらに高めます。デバイスは利用する役割と環境に応じて事前に強化され、展開前に検証済みの設定と承認済みのアプリケーションが適用されます。迅速な再設定の仕組みにより、ユーザーや役割が変わる場合でも安全に切り替えが可能になります。また、セキュリティ対策をデバイス側で適用することで、デバイスが会場間を移動した場合や中央のネットワークから切り離された場合でも保護が維持されます。モバイル性の高い大会環境では、在庫の正確な管理と責任の明確化が、運用とセキュリティの両面で不可欠です。

30%

ディープフェイク技術の進化により、
2026年には企業の約3割が「従来の本人
確認プロセスでは安全性を十分に確保でき
ない」と考えるようになる見込みです。



ライフサイクル効率と廃棄削減

大規模なIT環境におけるサステナビリティは、テクノロジーをどれだけ効率よく活用できるかにかかっています。つまり、需要の増減に合わせて、適切に管理し、回収し、再利用できるかが重要になります。臨時オフィスやスタジアム、モバイルチームにまたがる数千台のデバイスを管理するには、廃棄を抑え、資産の活用を最大化し、場当たりの調達を減らす仕組みが必要です。FIFAでは、サステナビリティを独立した取り組みではなく、統制のとれた一貫したライフサイクル管理の結果として位置づけています。

この取り組みの大きな利点は、デバイスをイベント終了時に廃棄するのではなく、追跡・回収・再利用・再展開することで価値を継続的に活用できる点にあります。ライフサイクル全体にわたって可視化と管理を行うことで、不要な交換を減らし、資産の損失を抑え、投資価値を長期間維持することができます。この循環型の仕組みは、環境目標とコスト効率の双方を支えます。

運用状況を継続的に把握し管理することで、テクノロジー投資を一度限りで終わらせるのではなく、次の運用にも活かせる価値へとつなげています。

これらの取り組みは、整備された在庫管理や業務プロセスを通じて現場に定着しています。集中管理された資産追跡、標準化された識別管理、整理された倉庫業務により、デバイスの準備、展開、回収、再配置を正確に行うことができます。バックアップ用のデバイスにより、ピーク時の緊急購入を減らし、利用効率を高めています。

Lenovo Asset Recovery Services (機器買取サービス) は、6,000台を超えるデバイスを廃棄せず、再整備・再利用・リサイクルすることで、ライフサイクルの循環を完結させる重要な役割を担っています。大会で使用されたデバイスは、安全にデータ消去され、検証されたうえで再展開されるか、適切に処理されます。既存資産から約85%の価値を回収し、それを次の技術投資に活用することで、廃棄物削減とインフラ強化を同時に実現しています。

このモデルにおいてサステナビリティは、単なる目標ではなく、日々の運用の成果です。ライフサイクル効率を運用に組み込むことで、環境負荷の低減、コスト管理、運用の安定性向上を同時に実現しています。この取り組みは、グローバル規模の高品質な運用を支える基盤となっています。

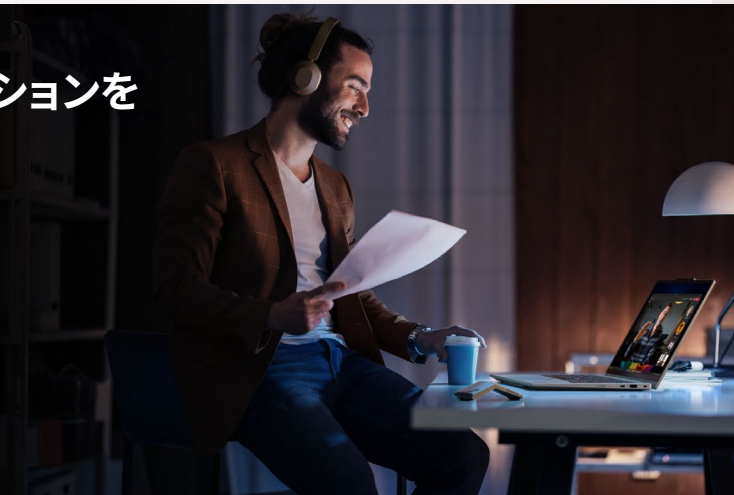
6,000+

6,000台以上のデバイスを
廃棄から転換し、資産価値の約85%を
回収・再投資するという目標も
順調に達成されています。

Lenovo デジタル・ワークプレイス・ソリューションをご覧ください。

Lenovo デジタル・ワークプレイス・ソリューションが、グローバルサービス、AIによるサポート、コラボレーション環境、統合デバイス管理、インテル®搭載Lenovo AI PCをどのように組み合わせ、企業の迅速かつ大規模な変革を支援するかをご確認ください。

Lenovoがワークプレイス運営をどのように再設計できるかをご覧ください >>



どこでも最高峰の業務オペレーションを構築する方法

このステップ・バイ・ステップのガイドを活用し、FIFAレベルの業務オペレーションを自社に導入してください。

Step 1 : 運用の複雑性を可視化する。

- ✔ ダウンタイムが許されない重要度の高い業務の流れを特定します。
- ✔ 離れた場所で働くチーム、臨時環境、複数拠点間の依存関係を整理します。
- ✔ オフィス、会場、司令センター、共有スペースにまたがるコラボレーション環境を整理します。
- ✔ コラボレーションの準備状況、パフォーマンス、サポート体制のばらつきを特定します。
- ✔ 手作業による調整がリスクとなるピーク時の状況や引き継ぎポイントを整理し、文書化します。

Step 2 : 再現性のために標準化する。

- ✔ 役割と利用環境に応じたデバイスやコラボレーションキットを定義します。
- ✔ 設定内容やコラボレーション環境を全体で標準化します。
- ✔ 常設拠点と臨時拠点をまたいだ一貫した初期設定の流れを確立します。
- ✔ 役割ごとの業務の流れを、予測しやすい展開とサポートの形に合わせます。

Step 3 : プロセスに自動化を組み込む。

- ✔ ITサービス管理ツールを、ライフサイクル管理の記録基盤として統合する。
- ✔ 自動的な対応振り分け、事前設定、準備状況の確認を可能にします。
- ✔ 展開、回収、再割り当ての業務を自動化します。
- ✔ 廃棄や過剰な準備を減らすための効率化施策を組み込みます。

Step 4 : 単なるサポートではなく、運用管理を設計する。

- ✔ デバイスと共有環境に対する管理責任の仕組みを明確にします。
- ✔ チームやベンダーをまたいだ標準手順と対応フローを整備します。
- ✔ すべてのデバイスとコラボレーション環境を一元的に可視化します。
- ✔ 資産の回収と再利用を運用ルールに組み込み、循環型のIT運用を実現します。

Step 5 : 単なる稼働ではなく、継続して運用できる強さを設計する。

- ✔ 業務の重要度に応じたサポート体制を定義します。
- ✔ ピーク時に備えたバックアップ用のデバイスやコラボレーション環境を確保します。
- ✔ すべての拠点でセキュリティと安定性の基準を適用します。
- ✔ 高負荷時やトラブル発生時の対応を事前にテストします。



次のステージ

AIが主導する企業における、 最高峰の業務オペレーションの未来

FIFAワールドカップは、極限のプレッシャーの下でも確実に機能するように、テクノロジー、管理体制、実行プロセスを一体で設計したときに、どのような運用が実現できるかを示しています。大規模で変化の多い環境、そして失敗が許されない状況においては、個別のツールだけでは対応できません。必要なのは、安定性、継続性、統制を前提に設計された運用モデルです。

AIを活用した自動化、設計段階から組み込まれたセキュリティ、そしてライフサイクル管理の徹底により、FIFAは妥協のないグローバル運用を支える基盤を確立しています。AIは手作業やばらつきを減らし、大規模環境でも高精度な運用を可能にします。進化するAIを悪用した脅威に対抗するため、セキュリティはデバイス、業務の流れ、管理体制に直接組み込まれています。ライフサイクル効率の向上により、サステナビリティ、コスト管理、運用準備のすべてを同時に高めることが可能になります。

FIFAは、妥協のないグローバル運用を支える、デジタル・ワークプレイス基盤を確立しました。

これらの課題は、スポーツイベントに限ったものではありません。あらゆる業界の企業が、働き方の多様化、AIの導入、セキュリティ強化、そしてサステナビリティとの両立といった課題に直面しています。成果の差を生むのは、運用がどれだけ意図的に設計されているかです。

インテル®搭載Lenovo AI PCを含むLenovo デジタル・ワークプレイス・ソリューションは、自動化された運用管理、設計段階からのセキュリティ、導入から回収までの一貫した管理を統合することで、このような運用を実現します。Lenovoが、世界で最も複雑な運用環境のひとつであるFIFAを支えられるのであれば、あらゆる企業に対して、より効率的で安全かつサステナブルなワークプレイスの構築を支援できます。

Lenovoが現代のワークプレイスを どのように再定義しているかをご覧ください。

FIFAワールドカップの全体像を通じて、その背景にあるソリューションと、AIを活用した運用の高度化を自社に取り入れる方法をご確認ください。

[詳しく見る >>](#)

¹Based on Lenovo internal data.

²Lenovo, *The World's Gone Football™*, 2025.

³Forbes, *How Businesses Are Using Artificial Intelligence*, 2023.

⁴Gartner®, *Predicts 30% of Enterprises Will Consider Identity Verification and Authentication Solutions Unreliable in Isolation Due to AI-Generated Deepfakes by 2026*, 2024. GARTNER is a registered trademark and service mark and IT Symposium/Xpo is a trademark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally and are used herein with permission. All rights reserved.